



デジタル技術で、型友禅の技と意匠を次代へ 「型紙自動作成システムの導入と型友禅意匠を生かした商品展開」

三彩工房株式会社

事業概要・成果

当社は、型友禅に用いる染型の製作をはじめ、プリントデータ製作、シルクスクリーン製版、手彫切り型、レーザー加工などを行っています。型友禅では、振袖一着に百数十枚、多いものでは数百枚もの型紙が必要となります。当社では、産技研が開発した「汎用カッティングプロッターを用いた型紙自動作成システム」を導入し、現場で使いやすいよう改良しながら活用。若手かつ少人数でも高精度な型紙製作が可能となりました。

また、当社の取組としてレーザー加工機を活用し、型友禅の意匠を木製食器などに展開するなど、新たな商品づくりにも取り組んでいます。

開発のきっかけ

型友禅の型紙製作では、職人の高齢化や後継者不足が進み、将来的な製造工程の維持が課題となっています。こうした課題に対応し、型紙製作を次代につなぐため、産技研では「汎用カッティングプロッターを用いた型紙自動作成システム」を開発。当社では、この技術を実際の型紙製作の現場に導入しました。

導入から実用化まで

2022年、当社は産技研のORT（オーダーメイド研修）を活用し、同システムの技術移転を受けました。ORTでは、カットデータの作成や機器操作などを習得。その後、カッティングプロッターを導入し、現場で使いやすいよう改良しながら実用化を進めました。

現在では、京都だけでなく沖縄や新潟などの型染産地や、神具製作に用いる型紙などの依頼にも対応しています。

今後の展望と課題

カッティングプロッターを活用した型紙製作により、京都以外の型染産地にも対応するなど、活

用の場が広がっています。

また、型友禅で培われてきた意匠を生かし、レーザー加工機を用いた木製食器などのオリジナル商品の製造・販売にも取り組んでいます。京都のお土産店やECでの卸販売に加え、海外への輸出実績にもつながっています。型友禅の技術や意匠を大切にしながら、デジタル技術をものづくりや新たな商品展開に活用しています。



産技研の支援内容

- ・「汎用カッティングプロッターを用いた型紙自動作成システム」の開発
- ・2022年のORTによる同システムの技術移転
- ・カットデータ作成、機器操作などの技術習得支援
- ・機器購入に際しての京都市・京都府の補助金制度の紹介
- ・導入後の動作不良などに関する技術相談

担当研究員からひとこと

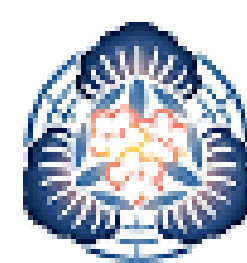
3か月間のORTによる個別指導に加え、現場で使いやすいシステムとなるよう、実用化に向けた改良も支援しました。設備導入後もスムーズに型紙生産を開始いただけたことを大変嬉しく思います。

同社では、型紙製作に加え、型友禅の意匠を新たな商品に生かす取組にも積極的に取り組まれています。デジタル技術によって次代のものづくりにつなげていく今後の展開を期待しています。

（産業技術支援センター 次席研究員 藪内 快）
（産業技術支援センター 次席研究員 沖田 実嘉子）

三彩工房株式会社

所在地：京都市右京区西院西高田町19-4
URL：<https://sansai-studio.co.jp/>



三彩工房株式会社
Sansai Studio Co., Ltd.

